

ル粗大ト變セルノミナラス著シク鑄滓<sup>ろし</sup>ノ散在スルヲ認ムヘシ即チ接合ニ際シ高熱ニ曝露シタル爲メ酸化ニ依リテ生シタル鑄滓ハ鍛接ノ場合ニアリテハ鍛煉ニ依リテ驅逐セラレタルモ溶接ニアリテハ毫モ鍛煉ヲ加ヘサルヲ以テ其儘殘存スルコトヲ示スモノニシテ後者ノ接合カ更ニ著シク其能率ヲ減小スルノ理由ヲ確ムルコトヲ得タリ

テるみつと接ニ關シテハ其供試片ヲ作ルコト能ハサリシヲ以テ之ヲ比較論究スルコト能ハスト雖トモ其溶接ニ使用スル熱度及接合ノ方法酸素あせちりんと殆ンド同様ナルヲ以テ其接合ノ結果ニ於テモ亦二者略ホ同一ナルヘシト推斷スルコトヲ得ヘシ是ニ依リテ之ヲ見ルニ酸素あせちりん瓦斯若クハテるみつとニ據ル溶接ハ張力ヲ受クル構材ノ接合用トシテハ鍛接ニ比シテ遙カニ劣ルモノナリト斷定セサルヘカラス鍛冶橋工事示方書中一〇六ニ依レハ鐵筋ハテるみつと酸素あせちりん瓦斯若クハ鍛接等ヲ以テ接合ス可シ云々トアルヲ以テ同橋ノ或部分ニハ鍛接ノ外前二者ヲ使用シタルモノアルカ如シ余ノ實驗ハ供試片ノ數ニ乏シク單ニ一般ノ概念ヲ得ルノ目的ニ供シタルモノニ過キササルヲ以テ猶未タ其論據ニ誤謬アルヤモ計ラレス率ニ右ノ成績ニ就キテ著者ノ實驗セラレタルモノアラハ併セテ之ヲ教示セラレンコトヲ望ム (完)

工學博士 吉町 太郎 一

維應力ノ計算ニ於テ何故核點彎曲率 (Core moment) ヲ利用セラレサリシカハ余輩ノ不遑了解ニ苦シム所ナリ本報告第七十六頁ヨリ第八十八頁ニ亘ル記事ニ依レハ彎曲率、軸壓力及ヒ向心剪力ノ何レカーツカ其ノ最大値ニ達スルトキノ荷重ヲ標準トシ之ニ伴フ他ノ二値ヲ算出シ其ノ内ヨリ

圖 三 第

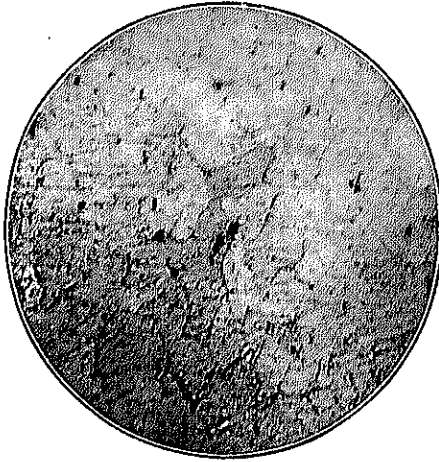
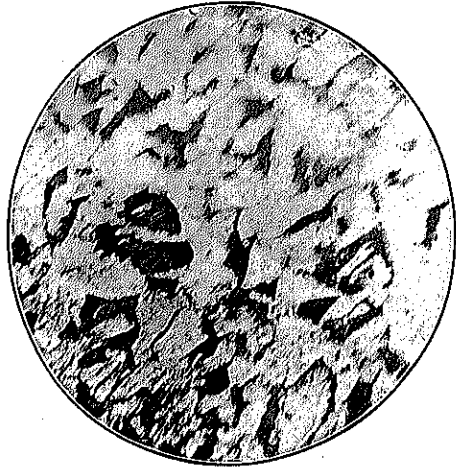


圖 一 第



二百五十倍放大

圖 四 第

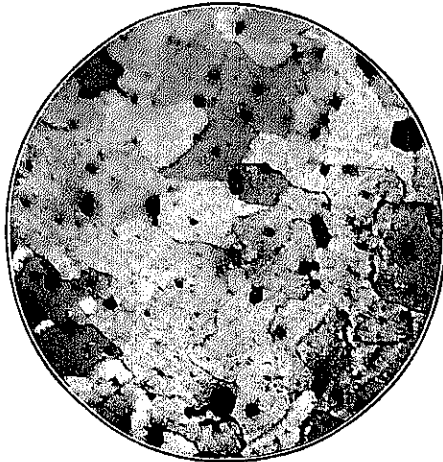
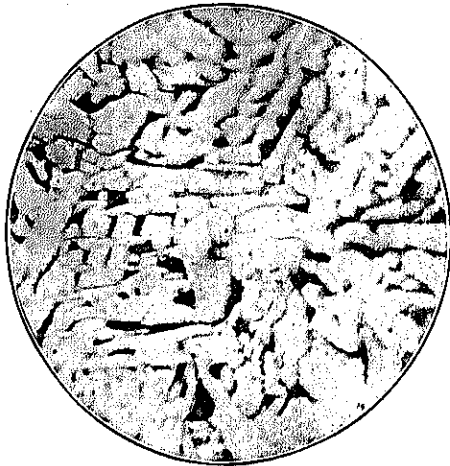


圖 二 第



黑色ノ  
斑點ハ  
鍍滓

$M$ ト $N$ ノ一對ヲ取り之ヲ

$$\frac{M}{N} + \frac{N}{M} = 2^2$$

ニ挿入シ以テ $\sigma$ ノ大小ヲ比較檢定セラレタルカ如シ然レトモ最大維應力ヲ求ムル點ヨリイヘハ此方法ハ所謂暗中摸索ニ了リ結局實際ノ最大値ヲ逸スルノ憾アリトス之レニ反シ核點彎曲率ヲ利用スルトキハ維應力ニ及ホス彎曲率ト軸壓力ノ影響ヲ一括スル事ヲ得ヘク其感應線ヲ畫ク事ニ依リテ直チニ最大維應力ヲ算出シ得ヘキハ今更喫々スルヲ要セス之ニ依リテ第十四表以下數表ノ手數ハ著シク省略スル事ヲ得ヘシ而モ核點彎曲率ヲ求ムルニ特別ノ手數ヲ要スルヤトイフニ必シモ然ラス第二十三表ニ於テ同性應力範圍半徑ノ算出セラレタルアリ即チ核點ノ位置既知ナルヲ以テ容易ニ核點彎曲率ヲ求メ其感應線ヲ畫ク事ヲ得ヘシ唯此方法ニ依リテ得ラル、最大維應力ト著者ノ方法ニ依ルモノトノ間ニ數字的ニ幾何ノ差ヲ生スヘキヤ爰ニ檢算ノ違ナキヲ憾ムモノナリ

報告ノ説明詳細丁寧ヲ極メ毫モ遺憾ナク吾人ヲ裨益スル事多大ナラシメタル著者ノ勞ニ對シテハ感謝措ク能ハサル所ナリ (完)